

## ITU-T SG20 副議長 (WTSA-16 選出 (新任)) 端谷 隆文氏 (富士通) に聞く

【読者のための豆知識】

SG20 (第 20 研究委員会)の活動内容：  
IoT とアプリケーション、スマートシティ

専門領域：ICT と気候変動およびスマートシティ関連の標準化

略歴： 1986 年 金沢大学大学院・教育学研究科 理科教育専攻 (修了)  
1986 年 株式会社富士通研究所 入社  
2008 年 ITU-T FG-ICT&CC 参加 ICT と気候変動標準に携わる  
2008 年 富士通(株)に異動  
2009 年 ITU-T SG5 参加 Q18 アソシエイトラポータ就任  
2015 年 ITU-T SG20 暫定副議長就任  
2016 年 ITU-T SG20 副議長就任 (現在に至る)



— 先の WTSA-16 での選出そしてご就任おめでとうございます。  
今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

(端谷) ありがとうございます。SG20 は、前会期中の 2016 年 5 月の TSAG で  
設立した SG で暫定扱いだったものが、今回の WTSA で正式承認されました。  
IoT とスマートシティを扱う関係上、大変関心の高い SG (副議長が SG 中最多の 13 人選出) で、副議長に  
任命されたことは大変名誉なことだと思っております。

— ご担当事項とご経歴、ITU との係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(端谷) ITU との関わりですが、2008 年に Focus Group on ICTs and Climate Change (ICT と気候変動に関する  
フォーカスグループ) が設置され Direct and indirect impact on energy of ITU-T standards の執筆  
が始まりです。

この FG の成果を受けて 2009 年に SG5/WP3 (ICT と気候変動) が設立され、2016 年までの 2 会期に  
わたり Q18 で活動してきました。SG5 の前会期中、2013 年～2015 年に FG-SSC: Focus Group on  
Smart sustainable cities (スマートサステナブルシティに関するフォーカスグループ) が設立され、  
社内外で関心の高い分野でしたので全ての FG に参加いたしました。この FG からの SSC 関連の継続  
審議の場が必要、TSAG からの IoT 関連の集中議論できる場が必要との提言で、2015 年 6 月の TSAG で  
IoT と Smart cities を扱う SG20 が発足、日本から暫定副議長として私が任命され、今回、正式に任命  
されました。

— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の  
最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

(端谷) 私の関心事は SSC だったのですが、SSC を構築する上で IoT が非常に重要な役割を果たすと思えます。  
IoT に関しては、全世界で非常に関心が高く、産業的にも重要なキーコンテンツです。IoT 利用が都市  
のスマートさいかにインパクトを与えるかを評価するための効率的なサービスを解析したり、ベスト  
プラクティスを収集することなどが重要なテーマだと考えております。

— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(端谷) 中立的な立場で SG をけん引していくことは副議長の役割と認識しておりますが、ICT 企業から派遣で  
もあり、SG での成果が ICT 業界全体の活性化、自社の活動にリンクするように活動していければと  
思います。

— 副議長としての難しさや壁 (障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？



(端谷) 新任とはいえ、すでに半年以上、暫定副議長として SG20 のマネジメント  
チームに所属しておりました。本チームは、中東各国の方々に関心が  
大変高く、弁の立つ方々が多く、その方々が中心に議論が進むという  
傾向があります。米国からの厳しい指摘ともいえる寄書対応への懸念  
を表明しても簡単に受け流され、SG 本会議では予想通り大変な対応を  
せざるを得ないこともありました。対処方法は、粘り強いコミュニ  
ケーションに尽きるかと思えます。

(写真： SG20 議長とのツーショット)

— わが国、各加盟国の政府関係や ICT 産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(端谷) 総務省、経済産業省が中心となり 2015 年 10 月に IoT 推進コンソーシアムが発足され、2016 年 10 月第 2 回総会では、当初の 700 社から 2400 社程度にまで会員数が大幅に増えております。国内だけでなく、世界においても IoT への関心は非常に大きいものを感じています。反面、ITU-T の活動では日本からの参加者が少なく、中東をはじめ新興国に勢いがあります。標準化することで ICT 産業界の活性化や利用を希望している新興国や発展途上国への進出が容易になることは自明です。ICT 産業界では、さまざまなコンソーシアムや SDO に関心を寄せ参加していることは承知していますが、世界の ICT 標準を勧告化する ITU-T への取り組みにも積極的な参加を期待しています。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(端谷) 富士通に入社 1 年後 (1987 年)、宇宙飛行士が、地上で無重力訓練に使う NASA の特別な飛行機で実験する貴重な体験をいたしました。自身初の海外渡航、輸送品の中には、最新機材や試薬類などがあり、輸出規制をクリアするのに一苦勞、また保険をかけようにもどれだけ危険 (45 度の角度で急上昇・下降を繰り返す飛行機ですので) か、保険会社も算定できないなど、出張前から未知への挑戦の連続でした。一人で渡航するも、着いた先はヒューストン郊外、日没が迫る中、予約したアパート (近くにホテルがなかった) の管理事務所にはすでに誰もおらず施錠されていました。携帯電話もない時代、今にして思えば笑い話のネタですが、さまざまなアクシデントをクリアし、無事に微小重力実験を遂行 (添付: 当時の 8mm ビデオから数コマを抜粋) できた経験が、「何事も、挑戦しないと始まらない」という私の信条を形成したのではないかと思います。



機材の点検も、体を浮かせて、このとおり



微小重力実験の様子 (NASA, 1987 年)

— 微小重力ではご気分はどうでしたか?

(端谷) 搭乗前に強い酔い止め薬を渡されました。飲むと、微小重力になる前からふわふわとした気分になりました (笑)。機内が微小重力になった瞬間、視線の方向すべてが下に見え、急に空間が広がったような感覚になりました。映画アポロ 13 号で主演したトムハンクスもこの飛行機で撮影したそうです。宇宙飛行士がよく水玉で遊ぶ様子を実演しますが、そういうこともできましたね。微小重力環境での実験様子は、8mm ビデオからコンパートして携帯で持参しています。興味のある方は、ぜひお声をおかけください。

2016年3月からドイツに赴任しており、自宅付近を散策、写真（夕暮れ時の丘の向こうに見える風車）を撮ったり、観光目的で運行している蒸気機関車（Augsburg から Salzburg へ）に乗ったりしています。今後、ドイツ国内はもとより欧州の素晴らしい風景の地を訪ねてみたいですね。



— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

（端谷）スマホは、身近な IoT 機器ですが、インターネットにつながった先には、無数の IoT デバイスが様々な情報を収集し、IoT サービスがビッグデータからデータマイニングや解析をして私たちに意味ある情報を届けてくれます。と、同時にいつでも情報発信源にもなれます。

スマートな社会を作るには、その活用次第であり、その活用の標準化がその手助けをしてくれると思います。ITU-T でそのような活動にかかわりませんか？

文責：（一財）日本 ITU 協会（M）